

9月号 ごあいさつ

我々の生活に欠かせない存在のエッセンシャルワーカー 今こそ、「社会の支え手をきちんと支えられる日本」へ

株式会社 山西 あすなろ会顧問
代表取締役会長 西 垣 洋 一

“エッセンシャルワーカー”の処遇、待遇改善が急務

私たちの日常は多くのエッセンシャルワーカー（EW）によって支えられています。エッセンシャルワーカーとは、日常生活を維持するために不可欠（エッセンシャル）な職業のことを言います。例えば、医療、介護福祉、保育、教育、自治体・公共交通機関などの公共サービス、ガス・水道・電気・通信など生活インフラ、物流、生活用品を扱うスーパーやドラッグストア、コンビニなどの小売業等に従事する方々が挙げられます。

しかし、彼らの処遇や待遇、労働条件は決して良いとは言えず、業務負担が高い割に、賃金などの待遇面や評価が低いことが共通課題の一つとなっています。医療従事者の例を挙げると、コロナ禍で病院の収支悪化を背景に、社員の賞与引き下げを行ったケースも話題に上がりました。小売業や介護業界では、パートなどの非正規雇用社員の数が多いことも、待遇面が向上しにくい要因の一つに挙げられます（右図① 参照）。そのためエッセンシャルワーカーが働く業界の多くが、若者のオフィスワーカー至上主義の高まりも相まって、人手不足に陥っていることが顕在化しています。今後ますます労働力不足が進む中、このままでは私たちの生活はみる間に混乱し、普段通りの生活を過ごしていくことが困難となります。エッセンシャルワーカーの働き手を増やすためにも、仕事への献身に応える待遇面の改善や社会に不可欠な価値のある尊い仕事を評価する仕組みの構築が欠かせません。

「現場搾取社会」からの脱却 ― 社会の支え手を支える日本へ

― 木材・住宅業界における“エッセンシャルワーカー”の地位の向上を!! ―

例えば森林・林業・木材産業について言えば、第一次産業としてエッセンシャルワーカーに含まれる林業従事者も実際のところ人手不足は深刻（昭和 55 年約 14.6 万人 ⇒ 令和 2 年 約 4.4 万人へ約 70%減）であり、次世代の担い手不足かつ高齢化が進み、コロナ禍以前より労働力確保の問題が指摘されてきました（右図② 参照）。このままだと森林の環境保全や木材生産に悪影響が出てしまい、労働環境や待遇面の改善など労働力確保の対策が急務となっています。海外では、ドイツやフィンランドにおいて森林経営という分野が成熟し、かつ重要視されています。ドイツにはマイスター制度があり、フォレスター（森林官）や森林マイスターが国家資格として確立されています。これらは地位の保証された専門職であり、人々の尊敬を集める職業となっています。卓越した技術や、山林を管理する知見、業界や自然環境への長年の貢献は、大きな賞賛に値するものです。こうした海外に学ぶことは多く、日本でも林業従事者が生きがいを持って働ける、地位の確立された魅力ある林業の実現に向けた取り組みが必要です。

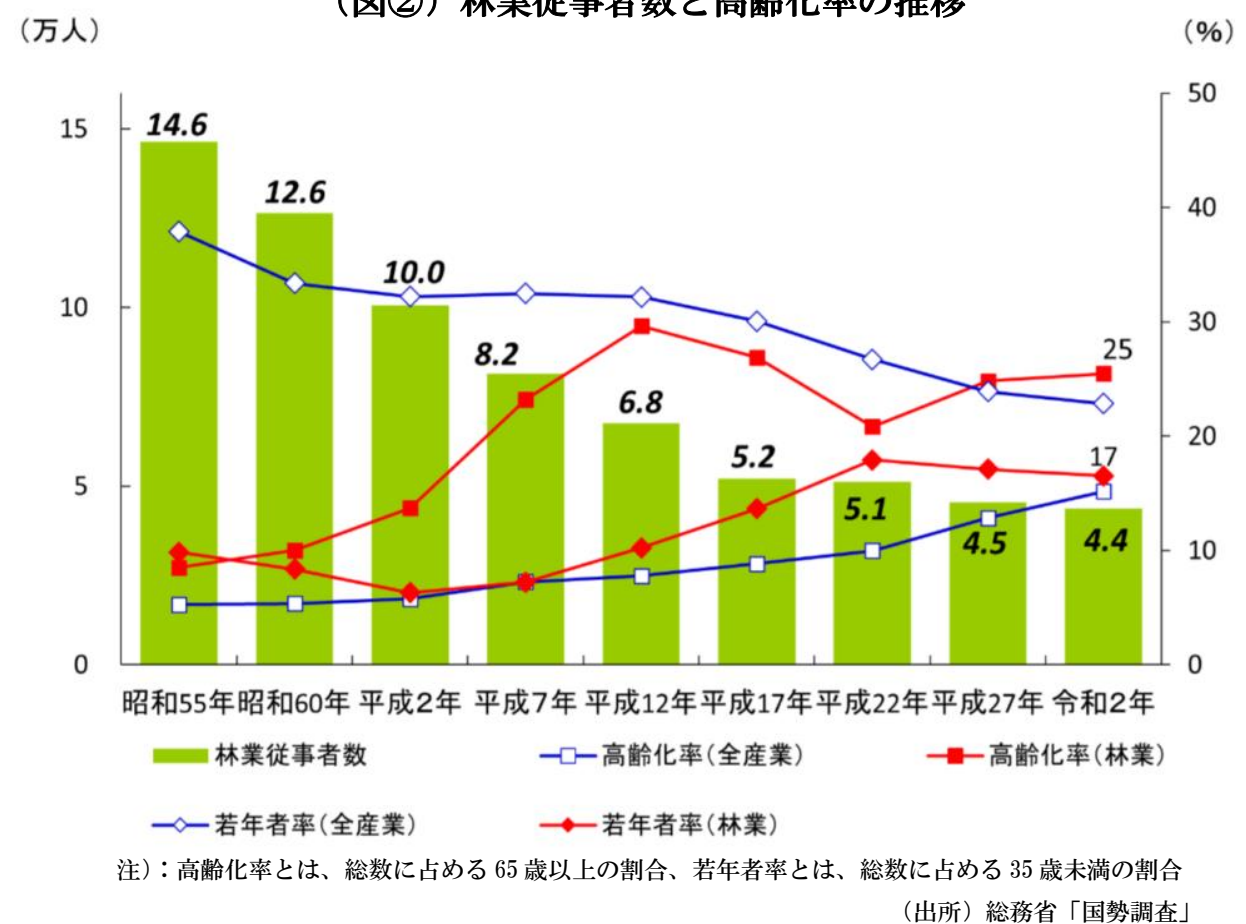
林業従事者に限らず、コロナ禍でエッセンシャルワーカーの重要性が認識されたとはいえ、遺憾にも未だ日本ではオフィスワーカー優位の意識が蔓延っています。今後も当たり前のように享受してきた日常生活を維持していくためには、我々の固定観念から変えていく必要があります。そして、現場にお金を回さない「現場搾取社会」の産業構造（商慣行）から脱却し、「社会の支え手をきちんと支えられる日本」への再設計を図っていかなければなりません。

2024 年 9 月吉日

（図①）労働市場・派遣市場の推移



（図②）林業従事者数と高齢化率の推移



※積算資料 8 月号掲載記事 『あなたの日常が危ない 現場搾取社会を変えよう』もご参照下さい。